

自ら学び考える青山っ子 家庭学習のてびき

豊かな感性を持ち、新たな知を拓く
実践力あふれる子どもの育成



あすにきたえる子ども(健康・体力づくり)

おもいやりのある子ども(情操・仲間づくり)

やりとげる子ども(意志・自立・心づくり)

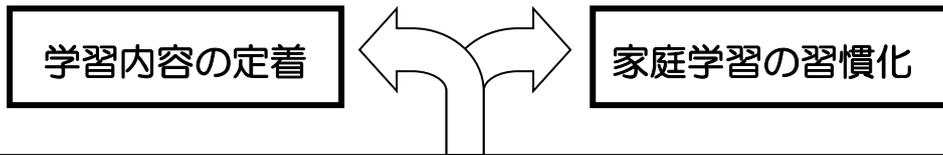
まなびつつける子ども(知性・感性・学びづくり)

青山小学校では、学習の基本となる学びの姿勢や態度を身につけていただくために、この「家庭学習のてびき」を、本校の児童の実態や学力調査の結果を踏まえ、本校の教職員で家庭学習のすすめ方について作成しました。

子どもたちが、知的好奇心や意欲、関心を持って学習をする能力や態度、学ぶことの楽しさや成就感を味わうことは、課題の発見や解決に向けて主体的・対話的に学び、さらに深く考える学習につながります。また、子どもたちが、試行錯誤を繰り返しながら学んでいく「学び方」は、探究的な学習につながり、自分なりのやり方で、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」という問題解決的な学びのプロセスを大切にしたい学びの質や深まりを育むこととなります。自ら学ぶ学習習慣を定着させるために、ご家庭との連携が大切であると考えています。

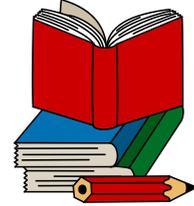
家庭学習の目的

☆ 家庭学習の目的は、『学校での学習内容の定着』と『家庭学習の習慣化』です。

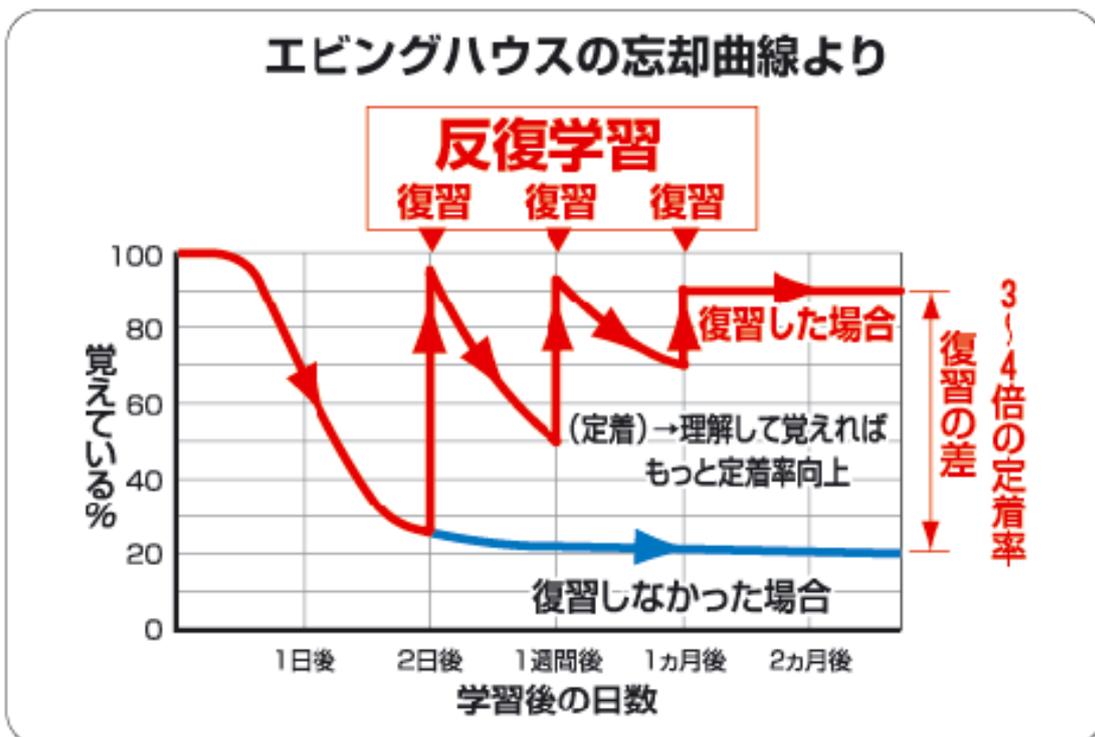


家庭学習の6つのポイント

- ① 規則正しい生活をさせましょう。
- ② 整理整頓した環境をつくりましょう。
- ③ 毎日、決まった時間にこつこつ学習させましょう。
- ④ 短時間で集中して学習させましょう。(学年×10分+10分が目安)
- ⑤ 「～ながら勉強」をしないようにさせましょう。
- ⑥ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます学習をしましょう。



下のグラフは、反復学習することによって、定着率がぐんぐんと上がることを表したグラフです。授業では、振り返りや反復練習を大切に学習しています。家庭での復習は、反復学習として、大変有効な学習です。



※ヘルマン・エビングハウス(1850~1909・独・心理学者)忘却学説を打ち出す。

家庭学習の意義

☆ 家庭学習をねばり強く継続させると、次のような教育効果が期待できると考えています。

① 学ぶ習慣の定着

低学年から「学びの基礎」をきちんと身につけさせるために、学ぶ習慣をつけることは、大変重要です。そのために、こつこつと毎日続けることが習慣となって定着し、自ら学ぶ姿勢をつけていくと考えています。その際、「～ながら勉強」はさせず、集中して一定の時間、学習する習慣をつけていきましょう。

② 学習内容の定着

学校で学習した内容を、家庭で復習したり反復したりすることによって、「できる」という自信や満足感につながり、学習の習熟や定着につながっていきます。また、次の時間の学習について予習することは、関心や意欲となり、自ら学ぼうとする主体的な学習の力や習熟、習慣の定着なども期待できます。前頁の「エビングハウスの忘却曲線」が示すように、反復練習によって定着率の向上が期待できると考えています。

③ 脳のトレーニング

手や足、体等と同じように脳も鍛えれば鍛えるほど発達することは、よく知られています。脳を使うことで、「考える力」「記憶する力」「気持ちや行動をコントロールする力」が鍛えられるそうです。脳が活発に活動するのは、「読み」「書き」「計算」をしている時だそうです。脳は、黙読より音読、見て覚えるより書いて覚える方が、広範囲で活発に働くそうです。また、思い出す習慣、つまり反復練習で、より効率のよい脳のトレーニングにつながります。

④ 見通しのある行動や学習

時間の見通しを持って行動や学習をすることは、人としてとても大切な要素となります。子どもの時から、一日の生活の流れが分かって行動できるように、時間を意識したり仕事の優先順位を考えたりする力を育てたいものです。例えば、テレビやゲームなど自分の好きなことばかりを優先して、やらなければならないことが後回しになって慌てる経験を誰もが持っていると思います。段取りや見通しを持って計画や予定が考えられるよう、家族で話し合うこともよいでしょう。

⑤ 考える力と確かな学力

学校では、自分の考えを相手にわかりやすく伝える力、友達と意見を交流しまとめる力、さらに発表する力を育てています。そのためにも、考えの根拠となる理由や要点を述べたり記述したりする力を重視していく必要があると全国学力学習状況調査にも述べられていました。

家庭学習の内容や方法（1、2年生編）

学習時間のめやす
20～30分程度

◆このような時期です

- 何でも知りたがっています。
- がんばったこと、よいところをほめてほしいと思っています。
- 一人で学習することや、やり方を決めることは、まだ難しいです。

《家庭では》

◆一緒にしてやる気をおこさせましょう

- 宿題を中心にすすめましょう。
- 時間に余裕がある時は、内容を考えて学習しましょう。
- できたことをほめることで、意欲が高まります。

参考例

- ・計算
- ・文字練習
(ひらがな・カタカナ・漢字)
- ・音読
- ・日記

■家庭学習のポイント

①子どもの学習に関心を！

『一緒に学びの跡を
確かめましょう』

- ・丁寧に正確にできているか確かめる。
- ・わからないところは一緒に考える。

②学習環境づくりを大切に！

『決まった時間や場所を
つくりましょう』

- ・時間や場所を決めると、習慣がつきやすくなる。
- ・テレビは、消す。

③家庭と学校がつながって！

『学校でしたことなどを
聞きましょう』

- ・学校からの連絡やお便りを確かめる。
- ・次の日の準備を一緒に確認する。

★学年で身につけたい力習慣づけの1年生

国語	算数
<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆を正しく持って字を書くことができる。 ・ひらがなが読めて書ける。 ・助詞（て・に・を・は）を使い分けて文章が書ける。 ・配当漢字80字のすべてを読んだり書いたりすることができる。 ・自分のしたことを、話したり文章に書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・100までの数が数えられる。 ・20までの足し算や引き算が暗算でできる。 ・時計（アナログ）を見て、時刻（0時・0時半）を読むことができる。

習慣が定着しはじめる2年生

国語	算数
<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナの清音を読んで書くことができる。 ・配当漢字160字のすべてを読んだり書いたりすることができる。 ・順序よく話をするすることができる。 ・自分のしたことや思ったことを文章に書くことができる。 ・教科書の文章がすらすら読める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時計（アナログ）を見て、時刻を読むことができる。 ・たし算やひき算の筆算ができる。 ・決められた長さの直線を正確にかくことができる。 ・九九をすらすらと唱えることができる。

家庭学習の内容や方法（3、4年生編）

学習時間のめやす
40～50分程度

◆このような時期です

- いろいろなことに興味を示し、行動範囲も広がります。
- 好きなことに熱中するようになります。
- 自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ見守りは必要です。

《家庭では》

◆認めて、褒めて、自信につなげましょう

- 家族の温かいアドバイスや励ましの言葉によってやる気をおこします。
- 見守りながら、困った時に応援し、できたことが増えると自信につながります。

■家庭学習のポイント

①子どもの学習に関心を！

- 『がんばりを見逃さず、
励ましの言葉をかけましょう』
- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。
 - ・わからないところは、一緒に考える。

②学習環境づくりを大切に！

- 『決まった時間や場所で
学習しましょう』
- ・時間や場所を決めて、学習の習慣をつける。
 - ・机の上の整理整頓を心がける。

③家庭と学校がつながって！

- 『学校のことを
話す時間をもちましょう』
- ・学校からのお便りを必ず渡す習慣をつける。
 - ・その日のできごとや学習などについて話す習慣をつける。

★学年で身につけたい力

視野を広げる3年生

国語	算数	社会、理科
<ul style="list-style-type: none"> ・配当漢字200字が読み書きできる。 ・ローマ字を適切に読み書きできる。 ・主語、述語、修飾語を使って、様々な文章が書ける。 ・教科書の文章がすらすら読める。 ・国語辞典を手元に置いて使い方に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算やわり算が正しくできる。 ・コンパスが正しく使える。 ・はかりを使って重さが読める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な地図記号がわかる。 ・八方位がわかる。 ・身の周りの地域の様子や自然の様子に関心を持てる。

9歳の壁を破る4年生

国語	算数	社会、理科
<ul style="list-style-type: none"> ・配当漢字200字が読み書きできる。 ・国語辞典や漢字辞典が正しく使える。 ・文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うことができる。 ・場面の移り変わりに即して、登場人物の気持ちを読むことができる。 ・書こうとすることの中心を明確にして書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算やわり算の筆算が正しくできる。 ・垂直、平行の意味を理解し、台形、平行四辺形、ひし形などの性質がわかる。 ・長方形や正方形の面積が求められる。 ・概数の意味を理解し、四捨五入によって概数を求めることができる。 ・仮分数や帯分数の表し方がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を使って、見知らぬ場所や地名を調べることができる。 ・47都道府県の位置がわかり、正しく名前が書ける。 ・1年継続して生き物の様子を調べたり、天体の動き方を観察したりする。 ・学習したことを相互に関係づけながら考えることができる。

家庭学習の内容や方法（5、6年生編）

学習時間のめやす
60～70分程度

◆このような時期です

- 自分でできているので、言葉かけに配慮が必要です。
- 得意な教科と苦手な教科を意識するようになります。
- 体も心も急激に変化します。体と心のバランスがくずれ、不安定になることもあります。

《家庭では》

◆見守って 伸ばしましょう

○子どもの話をよく聞き、成長を温かく見守ることで、将来の夢や目標に努力するようになります。

▣家庭学習のポイント

①子どもの学習に関心を！

『計画を立てて
自力で学習を進めるように
見守りましょう』

- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。
- ・他の子と比べず、昨日のわが子と比べてほめる。

②学習環境づくりを大切に！

『生活習慣の中に
学習時間を作らせましょう』

- ・決まった時間に決まった場所（学習机など）で毎日コツコツ学習に取り組む。
- ・自ら整理整頓を心がける。

③家庭と学校がつながって！

『学校のことや学習のことを
話す時間ももちましよう』

- ・学校からのお便りなどを必ず渡す習慣をつける。
- ・その日のできごとや学習などについて話す時間をもつ。

★学年で身につけたい力

自ら伸びようとする5年生

国語	算数	社会・理科
<ul style="list-style-type: none"> ・配当漢字全ての読み書きができ、読書に興味を持つ。 ・登場人物の気持ちや場面の情景を考えながら読むことができる。 ・決められた文字数で、要旨や主題をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数のかけ算・わり算ができる。 ・通分や約分を理解し、分数のたし算・ひき算ができる。 ・それぞれの図形の性質を理解し、公式を利用して面積を求めることができる。 ・百分率を使った計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県や県庁所在地、主要な山地、河川の位置が分かりかくなることができる。 ・日本や世界の国々の主な国の位置に興味を持つ。 ・気象の観察に興味を持つ。 ・植物のつくりに興味を持つ。

中学校への基礎を作る6年生

国語	算数	社会・理科
<ul style="list-style-type: none"> ・習得する漢字のほぼ全ての読み書きができ、読書に興味を持つ。 ・登場人物の気持ちや場面の情景を考えながら読み、自分の考えを深めることができる。 ・決められた文字数で、要旨や主題をまとめることができる。 ・意見文が書ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数のかけ算・わり算ができる。 ・円の面積や角柱や円柱の体積を求めることができる。 ・速さなどの割合を使った問題を解くことができる。 ・比例・反比例の関係を式、表やグラフを用いて表すことができる。 ・拡大図や縮図などの図形を正確に描くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の人物やできごとについて、だいたい説明できる。 ・いろいろなグラフや図、資料を活用して考えることができる。 ・社会の一員として、社会の仕組みや政治に関心を持つ。 ・太陽と月の様子、岩石の種類等に興味を持つ。 ・自然や科学に興味を持つ。